



Girls Fort Calling.

necoto

——物語とは、いつも唐突に始まるものだ。

例えば『桃太郎』は、突然どこからともなく流れてきた桃から産まれた子どもが悪さをはたらく鬼を懲らしめるというストーリーになっている様に。

そして、ここでも——

某所上空、大気圏付近にて。

「艦長、Dソナーに感あり！非常に小規模ですが、空間震が発生しています」

「んー…危険度は？」

「Cランク判定が出ています…が、連続発生しています」

「…さよか。なら、念のため第二種戦闘配備と同時に本部に報告、大至急な？」

観測士の報告に艦長と呼ばれた女性は一瞬考えた後、即座に指示を出した。

「さーて、今日のコレがオモロイもんになるかそうでないんか…見せてもらうで？」

そして、不敵にそう呟き、艦橋をあとにした。

場所は移り、地上——。

『ただいま、本条市上空にて小規模の連続した時空震が発生しており、付近の住民に避難勧告が出されています。また、国防省より第二種警戒態勢が発令されたため、本条市への立ち入り及び出入りが禁止されました。近隣の市民の方は外出する際にご注意してください。繰り返します…』

ニュース番組ではどこも同じことを言っており、外からも警報音が聞こえてくる。

おそらく外では、防衛省の次元防衛部隊が展開しているのだろう、装甲車の走行音等が響いている。

「…今日は早い目に動いたほうが良さそうだな」

少年はそれだけ言い、漆黒のコートを羽織り、脚に巻いたホルスターに銃を押し込め、背中のホルダーに機械仕掛けの大きな剣を差し込んだ。

と、その時、携帯の着信音が鳴り響いた。

「…もしもし？」

「俺だ、警報は聞いたな？ まあ聞かなくてもわかってるだろうが、微弱な空間震が短時間に連続して発生してやがる」

「みたいだな。同じようなことが前にも一度あったが、その時は何もなかったが…」

「だからって放っておくわけにやいかねーだろ？」

「当然だ」

通話相手の問いに即答し、玄関へと向かう。

「それに、今回ののは…今までのとは違う感じがする…」

「違う？ ……というと？」

「……わからん。が、明らかに今までの空間震とは違う、ような気がする」

「……まあ、お前がそう言うんならそうなんだろうな」

空間震。

25年前から不規則・不定期に発生する時空歪曲で、異次元との門になっており、空間震の発生地点から異世界の物が飛び出してくることがある。今までであれば、異次元の飛行機や動物、果てはドラゴンまで出現したこともある。発生原因は今のところ不明だが、有害・無害関係なく共通して「何かが出てくる」ことが挙げられている。

「とりあえず、よろしく頼む。俺たちも現場で待機してなきゃいけねーんでな」

「ああ、こっちはこっちで動くさ。いつも通りな」

通話が終わると同時に玄関から外に出る。

不思議なことに、風も吹いていないのに庭木がざわめいている。

日中は晴れていて夕方までは一番星が見えていた空にも分厚い雲がかかり、不気味さを醸し出している。

少年は、暗雲に包まれた空を見上げ、

「行くぞ、ウル。-黒天-起動」

そう言うのと同時に、羽織ったコートが巨大な翼へと変形した。

そして、

「千龍依遠、出撃する」

漆黒の巨翼をはためかせ、夜の空へと飛び立つ。

——この先に待つ、数奇な運命を辿ることになるとも知らずに。